

ずいそう

## 漢詩の魅力

江 本 平



漢詩との出会いについて書かせていただきます。事務局から依頼がありましたが何を書いたらいいのかと思っていたら、漢詩が浮かんできました。一時、漢字検定1級を取ろうと目論んだことがあります。元々漢字には興味があったので受けたいと思っていました。そこで早速参考書を買ってきましたが、なかなか勉強の時間が取れません。やってみると90%知らない字です。あるいはそれ以上かもしれない。最初はいろいろな問題を見ながら、やっちは覚え、やっちは覚えとしていましたが、なかなか前へ進まず、土日しようと思いましたがそんなに時間を取れるものではありません。

受験勉強の仕方に、多くの漢籍に接することというのがありました。その時、ある雑誌に漢文の本の特集があり、最高の漢詩は李煜（りいく）とありました。岩波の中国詩人選集というのがあり、その中の1冊です。早速書店に行って買い求めて読んでみました。

量的には少ないので読み通すことができました。これが最初で、もちろん他にもいろいろな詩人の本があります。字を覚えるのが目的ですが（しかし道は遠い）覚えるためには詩を暗唱するのがよい。毎日通勤時間を利用して1日1詩ということにしました。1冊終わると欲が出て（ちなみにすばらしい美文ということでしたが、さあ感動するぞと構えて読んでいると、結局そういうものには出会えないものです。全く感動はありませんでした。）他のめぼしいものも読んでみようと思いつき、李白、杜甫、陶淵明、白居易と進んでいきました。1日1詩は、結果的にはペースが早すぎたようです。1日だけその詩を何とか覚えつつも、何日かたって思い返そうとしてもまったく浮かんできません。つまり、私の脳力としてはついていけないのです。何ヶ月かたって見返してみると全く意味がわかりません。これではいかんと、やり方を変え、覚えた詩が10詩になるまで、毎日繰り返し、10詩に達したらまた10詩を覚えるまで毎日それを暗唱することにしました。これだとたしかに10詩をその時は覚えているがやはり何ヶ月かたつとほとんど忘却しています。こんなことで身につくのかと現在も心もとない状況です。

この方式は、陶淵明の途中から始めましたので、それ以前のはおそらくやっただけ無駄だった気がします。

荒草没前庭（陶淵明）

この句は、我が家の隣の空地が毎年8月頃草々になるのを見ると口をついて出ます。暗唱の成果があったようです。いろんなシチュエーションが漢詩に現れ、

人生の機微を詠ったものが多くあります。

白居易の詩に上陽白髮人というのがあります。これを訳は見ずに、初めて読んだ時、そこに出てくる玄宗皇帝の寵愛を受けることなく宮中で一生を送った美人の話に思わず涙が出ました。漢詩を読んで涙が出たのは初めてです。2回、3回と読み返すと、もうそういう感動は起こりません。どうも前広告なしにふっと出会って、その時周りが静かでその世界と自分の中の感性がぶつかった時感動が起こるようです。この年で改めて知った気がします。最近は日常生活の中で感動して泣くなどということは滅多にありません。通勤電車の中だったので非常に恥ずかしい思いをしました。

漢詩は、日本語の訳を見なくてはまず意味は取れないでしょうが、白居易の詩はたしかに恐ろしく平明にできているのに驚きました。だんだん読んでいるうちに漢文の構造も初歩的なものは頭に入ってきますので、字を知っていれば意味が取れる場合があります。これまでは、まず分かるはずはないと思っていましたが、それからは次の詩を読む時は何とか意味が分からないものかと中身を推測するようになりました。

字を覚えるのに役に立ちます（しかし、日本語として使われていないものが大部分であり、直接役立つというものではありません）が、詩を覚えること自体がよかったようです。詩というものは感情や意思や事実が凝縮されたものですから、何か感銘を受けます。日本語と漢語の違いは、詩にとっては本質的なものです。同じ意味でも日本語にするとただの散文であって、歯切れのよさや、調子は失われ詩ではなくなります。ある意味で不思議です。

脳力活性化、ボケ防止にも漢詩を覚えることをお勧めします。何回か繰り返しているとだんだん染み込めます。『国家の品格』に語彙こそ思考力だと書いてありましたが、言葉を覚えることはよいことのようにです。

一度覚えると漢詩の世界というものがあると実感します。詩人たちの頭脳には敬服します。彼らは、膨大な史書、教典を丸暗記しているだけでなく、自由自在に取り出せます。

我々が手にしている漢詩の世界は、後世到達可能なものではなく、まさにその時代の環境、精神が生み出した文化遺産のようなもので、あのような傑出した作品は多分二度と生れないのではないかという気がしてきます。